

住まいが被害を受けたときに最初のこと

防災・減災について考えよう vol.18

問 危機管理室 (☎ 62-3145)

まずは、写真を撮りましょう！

大雨や地震、強風などで住まいが被害を受けたときは、あまりのショックに、何から手を付けたらいいか分からなくなるかもしれません。被害を受けた人が、一日も早く日常生活を取り戻せるように、行政もさまざまな支援に動き出します。それらの支援も受けながら、一歩ずつ再建を進めて行きましょう。

その支援を受けるためにも、被災状況をデジタルカメラや携帯電話などで写真に記録しておいてください。



★家の被害状況を写真で記録しましょう。

片付けや修理の前に、家の被害状況を写真に撮って保存しておきましょう。

被害を受けた人がさまざまな支援を受けるためには、り災証明書が必要となること

がほとんどです。

市からり災証明書を取得して支援を受ける際や、損害保険を請求する際に、たいへん役に立ちます。

★写真撮影のポイント



- ・家の外と中をどちらも撮影する。
- ・「寄りの写真」と「引きの写真」をどちらも撮影する。



家の外の写真の撮り方

- デジタルカメラ・携帯電話などでなるべく4方向から撮るようにしましょう。
 - 浸水した場合は、浸水の深さがわかるように撮りましょう。
- ※メジャーを当てたり、比較できるものと一緒に「寄り」と「引き」の写真撮っておくと、被害の大きさが良くわかります。



家の中の写真の撮り方

- 家の中の被害状況写真は、
 - ①被災した部屋ごとの全景写真
 - ②被害箇所の「寄り」の写真を撮影しましょう。
 (想定される撮影箇所) 内壁、床、窓、出入口、サッシ、襖、障子、システムキッチン、洗面台、便器、ユニットバスなど



※被害を受けた部屋・箇所はすべて撮影しましょう。